

2月に入るとヨーロッパの各地域でカーニバルが開催されます。今回は世界三大カーニバルの一つ、ベネチア(ヴェニス)のカーニバルを紹介します。

【ヴェネチアン カーニバル 2010: 2月6日(土) ~ 2月16日(火)】

<http://www.venicevisit.com/TOPIC/carnevale-2010.html>

ベネチアはイタリアの北東部、長靴型をした半島の北東部の付け根に位置します。

「水の都」として世界的に知られ、ベネチア映画祭の開催地としてもその名が知れ渡っています。本島全体が小さな島々からできており、その真ん中を全長約3kmにおよぶ逆S字形の「カナル・グランデ (Canal Grande、大運河)」が流れています。水上バス(バポレット)など街の主要な交通水路としても活躍。長い砂州や海岸の防波堤がこの町を海から守っており、150をこえる運河が177の島々を分け、その運河には400にもおよぶ橋がかけられた「水の都」です。しかし華やかな表面とは裏腹に土地ならではの事情も見ることができ



ます。ベネチアはラグーナと呼ばれる浅瀬に無数の木杭を打ち込み、人工的にできた土地。現在は地下水利用による地盤沈下が進み、高潮による水没に見舞われています。地盤沈下が顕著にみて取れるのが、写真のように傾いた塔。倒れないよう応急処置は施していますが、元に戻らないのが現状のようです。

ここからは2007年に行ったベネチアカーニバルの回想録です。拙い文章ですが、読んで下さい。

2月は日本同様まだまだ寒い時期。でも、このカーニバルの時期は寒さを少しだけ忘れて夜遅くまで楽しめます。

空港からベネチア本島までは水上タクシー・バス・列車等々を利用していきます。バス・タクシーは本島の入口まで。本島には乗り入れる事ができません。列車は「ベネチア・サンタ・ルチア駅」で下車。駅を出るとそこはもうベネチア本島。バポレット(水上乗り合いバス)乗り場があり、これに乗って目的地まで移動できます。今回は空港近くにある水上タクシーを利用。待合室は海の上にあるのでグラグラユラユラ。いるだけで酔いそうだったので地上に出て待つことに。

水上バスの船上からベネチア本島のサン・マルコ広場が見えてくると、周りから「オオーッ」という歓声にも似た声があり、‘とうとう来た’という気持ちに。広場の船着場が近づくとつれ、人の多さにも驚かされます。既に仮面を被り、仮装している人々を見ると、一瞬ここはどこかと思わせる雰囲気があります。さあ、カーニバルの始まりです。



ホテルに荷物を置き、ゆっくりする間もなく外へ散歩。すれ違う人すれ違う人仮面を被っていたり、仮装していたり…。中には仮装の格好のままホテルにチェックインしている人も。でもそれがとてもホテルの雰囲気とマッチしている思わず写真を撮ってしまいました。イタリアというと“観光中の荷物には気をつけて…”という印象が強い国ですが、ベネチ

アは比較的安心な印象を持ちました。だからといって気を許したわけではありませんが、仮面をつけて店内に入っても咎められることもなく、もしこれが本物の強盗だったら…と思うこともありましたが、そんな事に遭遇することはありませんでした。



メインは[サン・マルコ広場](#)。既に広場では舞台が造られておりイベントが始まっている様子。広場は仮装している人、仮面だけを



被っている人、カメラ片手に写真を撮りまくっている人等々、皆思い思いに楽しんでいる感じでした。早速カメラ片手に仮装をしている人に近づき写真を一枚。ほとんどの仮装者はカメラを向ける

と立ち止まったり、ポーズをとってくれます。一人が撮り始めると他の人も'わっ'と寄ってきて、いつしか写真撮影会が始まります。別の場所で見かけるとそちらへ移動。撮っても撮っても写真に収められないぐらいの仮装者がいます。しかもどれも衣装がこっててスゴイ。この日のためにお金を貯めているというフランス人仮装者がいました。



歩き回れば自然とお腹もすきます。ここはイタリア。食の宝庫。この街は特に魚介類が豊富です日本でも定番、イカスミのスパゲッティはベネチアの代表的な料理です。又、とうもろこしの粉を使って煉った[ポレンタ](#)(写真左の黄色の食物)は北イタリア地域で食べられている。もちもちとした食感で、肉や魚介の煮込み料理の付け合せに出されることがあります。



定番のニョッキや魚丸ごとオープン焼き等どれも美味しくいただきました。デザートも豊富。これまた定番のティラミスチョイス。



食事時になればお店はどこも人でいっぱい。美味しいと評判のお店の前では行列ができていこともしばしば。イタリアのお酒というとワインが思い浮かびますが、食後酒にレモンチェッロ(写真右)というお酒があります。度数が30℃以上！という



強烈なお酒。浮かれ気分で一口飲んだらレモンの風味がして美味しい！けど、ちょびっと一口が限界、喉が熱くなりカッーと顔が赤くなるのがわかり、すぐに水を飲みました。店員さん、お隣さんともその表情に苦笑。言葉はわからなくともコミュニケーションがとれた気がした瞬間でした。

夜になると更に盛り上がっているかなあ…と思い広場にむかったら意外と閑散。昼間の賑わいに比べると寒々しい感じでした。でも、広場を照らす照明がまた雰囲気醸し出していました。[サン・マルコ寺院](#)近くの暗闇に仮装した男性3人が立ち話。映画のワンシーンを彷彿させる雰囲気でした。



翌朝は霧が発生していました。霧のベネチアはなんとも幻想的で神秘的な感じに見えました。広場の鳩は首をすくめて寒さに耐えているよう。その後天気も回復し晴れ間も。カーニバルや散策を楽しむには申し分ない日和。始動開始です。朝はまだ人もまばらでしたが、時間が経つにつれ仮装者も増え、昨日同様の賑わいを見せ始めました。歩いているだけでいろいろな人とすれ違うので、今日は街を散策です。

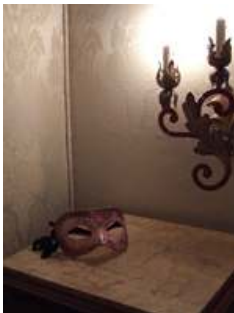
前述にも記したようにベネチアは運河により大小の島々が分断されており、その運河に多くの橋が架けられています。細い路地もあれば広い道もあり、地図を片手に散策しようとしても最終的には今どこにいるのか分からなくなり…でもそれが楽しいのがベネチア散策。ベネチアの路地の一つに「カッレ・ストレッタ(狭い道の意)」という道があります。その名の通り細い路地で、成人一人分の幅しかなく、壁側を向いて人がすれ違えるかどうか…というぐらいの細さです。



また、歩いていて気づくのが「マリア像」の多さ。路地の突き当りや曲がり角、なぜこんなところに…?と思う場所に「マリア像」をみかけます。イタリアは聖母マリアの信仰が篤いという宗教的な理由もあるようです。(写真の左側の祠みたいな部分にマリア像があります)そんなベネチアの街歩きを特集していたので、下記をご覧ください。

<https://www.nhk.or.jp/sekaimachi/detail/deai/050405.html>

2月ということもあり、早くも17時を過ぎると徐々に日が落ちてきます。その前に自らも仮面を購入すべくお店を物色。期間限定であちこちの道端でカーニバル衣装が販売されています。猫をかたどった仮面もあれば真っ白な仮面も。



その中で写真左の仮面を購入しました。早速仮面をつけて夕暮れ時の広場へ向かいました。

日没前ということもあり、まだ広場には多くの観光客がいました。昨日と特に変わった様子はないのですが、自分が仮面をつけていることもあり気分高揚。カーニバルを楽しみました。しかし、20時頃から雨が降り出し、気分一転。寒い中冷たい雨に濡れるわけにもいかず、ホテルへ。一息ついてから夕食です。



翌朝、雨は上がりましたが曇り空。今日が最終日。出発時間まで散策です。そういえばベネチア名物 gondola に乗っていないことに気づきましたが、なんせ高い。ならば市民の gondola に、乗った気分だけでも…と思い早速乗り場へ。市民の gondola とは「トラゲット」のことで、gondola の渡し舟です。待機しているトラゲットに乗り、料金は船頭さんに手渡します。立ち乗りということは知っていたので、人





が多くなったら立てばいいと思えばしばらく座っていたが、中々人が集まらず。波でゆらゆらと揺れるので船酔いも気になりだし時に出発。立とうとしましたが、船頭さんから座ったままでというジェスチャー。移動中も揺れましたが、ほんの数分で対岸に到着するのであまり気にならずにすみませう。でも折角なら立って乗ってみたいと思ひ、しばらく散策してから再度乗り場へ。今度は既に何人か並んでおり、乗車時既に立ったまま待機。捕まる棒など無いのでバラ

ンスを取りながら集中していると出発。動くとき更にバランスが難しい。横目に地元の方を見ると皆平然と立っていて焦っているのは慣れない私たちだけ。景色を楽しむ余裕無く元いた対岸へ到着。中々スリリングなゴンドラです。

カーニバル・散策・食事。短い期間でしたが、存分に楽しめた旅行でした。

寒くて中々家から出たくなるこの時期。更に寒い国へ行くと、ちょっとした決断力も必要になりますが、それを超えて行くことで楽しい思い出を作ることが出来ました。

この他にもヨーロッパ各地でカーニバルが催されます。(別紙 PDF 参照)

航空運賃が安いこの時期に一度訪れてください。

カーニバルに参加されていた仮装の数々

